

# 生活

seikatsu@asahi.com



**選び方**

ライフジャケットはどんなものを選ぶ方がいいのか。着用措置が伴う小型船舶用は国土交通省が基準を定めている。一定の浮力や強度があり、オレンジなど目立つ色であること、笛が付いていることなどが要件になっている。

水遊びやおか釣り向けに、動きやすさやデザインを考慮してつくられた手軽なものもある。メーカーによつては基準適合品と区別するため「フローティングベスト」「スノーケリングスポーツ用品店では色鮮やかなライフジャケットが並ぶ」東京都江東区

## 固型式が安心 ■ 浮き方確認を

「ベスト」などの名称で販売している。釣具店やスポーツ用品店、インターネット通販で手に入りやすい。小型船舶用の適合品などを製造販売するオーシャンライフ(和歌山県)取締役の田ノ本章平さんによると、空気で膨らむ膨張式もあるが、水遊びなどでは浮力材が入った固型式が安心。適合外品の場合、浮力は国の基準を目安に製品表示を見るとき、基準は、淡水中で24時間以上維持する浮力として、大人用は7・5kg以上、子ども用は4・5kg以上、子ども用は2kg以上、体重40kg未満は5kg以上、体重40kg以上は7・5kg以上。子ども用は、体から抜け落ちないようにサイズを確認

東京都江東区のスポーツ用品店「スポーツポ南砂町スナモ店」では青色やピンク色などの品物をそろえている。価格は2千〜5千円で、昨年は約150個売れた。高田弘治店長は「浮輪と同じくらいの値段。選択肢の一つとして見てもらえれば」と話す。(毛利光輝)

# ライフジャケット 水辺の命綱



### ライフジャケットを選ぶポイント

国の基準に適合する小型船舶用が確認

適合外品の場合、浮力は国の基準(24時間維持できる浮力)を目安にする

大人用	7.5kg以上
子ども用	4.5kg以上
体重15kg未満	4kg以上
体重40kg未満	5kg以上
体重40kg以上	7.5kg以上

サイズが緩くないかを確認

股ベルトがあると脱げにくく、より安心

田ノ本章平さんへの取材から



## 海に転落の2歳児救出例も

夏になると水辺で遊ぶ機会が増えます。でも、心配なのが事故。専門家は、大切な命を守るためにライフジャケットを着るよう呼びかけています。最近ではデザインも多彩になり、選択の幅が広がっています。

### 効果は

「泳いでいる最中より、服を着たまま溺れる事故の方が圧倒的に多い」と水難学会の斎藤秀俊会長(国立長岡技術科学大学副学長)は指摘する。死者・行方不明者で水泳中だつたのは88人、水遊び中は72人、釣りは221人、水難救助中20人、その他238人。山岳遭難の2・8倍に上り、半数は6〜8月の出来事だ。

人々で水辺での事故が目立つ。とりわけバーベキューの合間などに無防備に川遊びするのは危険だ。中学生以下の子どもの限ると、川での犠牲者は海の2倍以上だ。

安全教育を行う河川財団子どもの水辺サポーターセンター長の吉野英夫さんは「種やかに見える川でも、水中の流れは複雑。急に引き込まれ、パニックになって溺れてしまつ」と注意を促す。人が流されたら、ペットボトルやクレーボックスを浮き具代わりに投げ込むことも有効だが、「そばになければ間に合わない。溺れている人の近くに投げると効果的なのはライフジャケットの着用だ。水難学会の斎藤会長は「服を着たま

かめる。股ベルトが付いているものがより安心という。どんな浮き方をするのか、足が届く水深を確認して、年間で3千着をすすす。

同社では浮力は確保しつつ泳ぎやすいように設計した適合外品を5千〜6千円で販売する。色柄やデザインも凝り、年間3千着をすすす。

ま水に落ちたら、あつという間に沈んでしまう。助かるには浮いて救助を待つことが鉄則。ライフジャケットを着ていれば命をつなぎとめることができる」と話す。溺れている子どもを助けようとした大人が死亡する事故も後を絶たない。「そんなつらい事故を防ぐためにも、水辺で遊ぶだけの時でも子どもには着させることを心がけてほしい」

海上保安庁の調査では、過去5年に防波堤や磯などから海に転落した釣り人のうち、着用者は約7割が助かった。浮き続けることで発見もされやすい。家族で海釣り公園を訪れた12歳の男児が海に落ちてしまったが、ライフジャケットを着ておろ、ボートで救出されてけがもなく済んだという事例もある。

海上保安庁の松浦あずさ・マリンレジャー安全推進室長は「磯場で海藻探りなどを楽しむ高齢者が足を滑らせて溺れるケースも増えている。そういう方々にも着用してほしい」と呼びかけている。